

船橋市リハビリセンター
令和4年度事業報告書

指定管理者：医療法人社団輝生会

目次

I	管理の実施状況	1
1	センター基盤の整備	1
	(1) 組織編成	1
	(2) 情報システムの構築	2
	(3) 職員の資質向上	2
2	サービス機能	3
	(1) 職員配置	3
	(2) 提供したサービス	3
3	地域連携・ネットワーキング	4
	(1) 回復期病棟を持つ病院との連携	4
	(2) 医師会との連携	4
	(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携	5
II	利用状況	7
1	外来患者	7
	(1) 外来リハビリテーション患者数	7
	(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳	7
	(3) 年齢別・男女別外来患者内訳	9
	(4) 疾患別外来患者内訳	10
	(5) 地域別外来患者内訳	11
2	通所リハビリテーション利用者	12
	(1) 通所リハビリテーション利用者数	12
	(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳	12
	(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳	13
	(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳	13
	(5) 介護度別分類	14
	(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳	15
3	訪問リハビリテーション利用者	16
	(1) 訪問リハビリテーション利用者数	16
	(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳	16
	(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳	17
	(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳	17
	(5) 介護度別分類	18
	(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳	19
4	訪問看護利用者	20
	(1) 訪問看護利用者数	20

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳	20
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳	21
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳	21
(5) 介護度別分類	22
(6) 地域別訪問看護利用者内訳	23
5 地域リハビリテーション拠点事業	24
6 リハビリ事業	24
(1) パワーリハビリ教室	24
(2) パワーリハビリフォローアップ	25
(3) プールリハビリ	25
III 収支状況	27
IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告	29
(1) 目標1 利用者アンケートによる患者満足度（外来患者について）	29
(2) 目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率（通所リハビリ利用者について）	31
(3) 目標3 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数7年以上の者の占める割合100分の30以上	33
(4) 目標4 利用者アンケートによる患者満足度（通所リハビリ利用者について）	34
(5) 目標5 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率（訪問リハビリ利用者について）	36
(6) 目標6 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上	38
(7) 目標7 利用者アンケートによる患者満足度（訪問リハビリ利用者について）	39
(8) 目標8 利用者アンケートによる患者満足度（訪問看護利用者について）	41
(9) 目標9 利用者アンケートによる患者満足度（リハビリ事業利用者について）	42
(10) 目標10 診療所部門 経常収支比率	44
(11) 目標11 訪問看護部門 経常収支比率	46
(12) 目標12 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う	47

(資料)

資料1 組織図	資料7 訪問看護アンケート
資料2 センター内外の研修・学会	資料8 地域リハビリテーション拠点事業アンケート
資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績	
資料4 外来患者アンケート	
資料5 通所リハビリテーションアンケート	
資料6 訪問リハビリテーションアンケート	

I 管理の実施状況

1 センター基盤の整備

(1) 組織編成

リハビリセンターの組織編成は昨年度から新たに設置したもの、撤廃したものではなく、下記の体制を組んで運営している。センター長を補佐する役割として、副センター長を配置。以下、クリニック部門、サポート部門、船橋市委託事業部門の3つのセクションを配置し、それぞれの部門においてセンターの基本となるクリニック事業（外来リハ・通所リハ・訪問リハ）、リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）、地域リハビリテーション拠点事業、職員の資質向上、事務の業務を担当し、医療安全、個人情報保護等センターを運営する上での個別の重要事項については、専門の委員会が担当する体制とした。各事業と主な委員会の役割は次のとおり。（資料1 組織図）

A クリニック事業

クリニックは、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護福祉士が所属し、外来・通所・訪問リハビリテーションの患者の診療及びリハビリテーションを担当した。

B 訪問看護

訪問看護は看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属し、訪問看護ステーションの利用者の看護及びリハビリテーションを担当した。

C リハビリ事業（パワーリハビリ教室・フォローアップ・プールリハビリ）

リハビリ事業は、理学療法士、健康運動指導士を配置し、利用者の筋力マシンを使用するトレーニングの相談やアドバイス、プールリハビリの水中歩行訓練等を担当した。

D 地域リハビリテーション拠点事業

地域リハビリテーション拠点事業は、ソーシャルワーカーを配置し、リハビリについての啓発活動、リハビリ関係者の育成、医療及び介護の連携強化、リハビリの実態把握、リハビリの総合相談を担当した。

E サポート部

サポート部は、事務職が所属し、医療事務、総務・人事、施設管理、患者サービスの向上及び、職員の働きやすい環境作りを担当した。

F 主な委員会の担当事項

① 医療安全委員会及び感染対策委員会

医療安全委員会は、センター内における事故を防止し、安全かつ適切に業務遂行できる体制を確立した。センター内で起こる「ヒヤリハット」報告に対して検討し、事故を未然に防ぐべく対策を提案した。また、プール内で利用者が急変したことを想定し、急変時対応の勉強会を実施した。感染対策委員会は、

センター内における細菌、微生物、ウイルス等の感染防止対策を推進し、院内衛生管理の万全を期した。感染予防に対する意識を高めるため、手洗い評価、PPEの脱着方法の実技形式の研修を実施した。

②個人情報保護委員会及び診療情報開示検討委員会

個人情報保護委員会は、患者等の個人情報の取り扱い・保護・管理・委託・苦情・相談等を審議した。診療情報開示検討委員会は、診療情報の提供・開示の具体的方策及び、実施要綱などの運営上の問題点等を協議するとともに、センター長からの諮問により開示申請者の適否・開示情報の範囲、開示の可否について審査する体制を整えている。

② サービス向上委員会

患者のアメニティーの向上・苦情対応は、サービス向上委員会が担当した。苦情対応として、御意見箱を設置し、患者等の苦情に対応する体制を整え、患者満足度調査等も実施した。接遇向上を目指して、接遇に優れるスタッフを投票で選び表彰した。また、センター内の整理整頓の取り組みを実施し美観を保てるよう取り組んだ。運営の透明性を確保するため、センター内の情報を公開して、事業内容を刊行物にて提供した。

(2) 情報システムの構築

リハビリセンタークリニックで行う診療はチームで行い、電子カルテシステムを導入し、患者の状況・治療の目標等の患者情報を共有している。この電子カルテにより、患者情報が一元化され、チームスタッフが患者とその家族との面談の際に必要な情報提供にも寄与した。

(3) 職員の資質向上

効果的なリハビリテーションの提供には、患者本人から機能回復の意欲を引き出し高いモチベーション（動機付け）をもって主体的にリハビリテーションを行うことができる環境づくりが重要である。その中で、職員の対応は最も重要となる。

このことから、職員には当院が提供するリハビリテーションの理解を深めるため、病院の概要、診療システム、各部門の業務体制だけでなく、当法人の基本理念、診療方針、患者の基本的な権利等を理解し行動できるよう研修を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、専門性を高めるため、外部で行われる研修会にも参加を促した。

各スタッフの接遇に対する意識を共有するため、各自が接遇について気を付けていることについて共有を図った。また、接遇に優れるスタッフを表彰する機会を設け、接遇意識の向上を図った。

(資料2 センター内外の研修・学会)

2 サービス機能

(1) 職員配置

区分	令和4年度
センター長兼院長兼医師	1
副センター長	1
所長（看護師）	1
マネジャー（作業療法士）	1
看護師	6（3）
医師	1（1）
ケアワーカー	3（1）
理学療法士	13
作業療法士	5
言語聴覚士	2
ソーシャルワーカー	1（1）
健康運動指導士	2（1）
サポート部（事務）	5（1）
運転手	9（9）
総計	51（17）

() 内非常勤職員数

(2) 提供したサービス

ア) 外来リハビリテーション

通院による外来リハビリテーションを提供した。混雑した場合には個別リハビリテーションが十分に提供できなくなることからサービスの提供は予約制とした。また、リハビリテーション科の医師の診察等には一定以上の時間を要することから初回受付も予約制とした。

イ) 通所リハビリテーション

利用者が可能な限り居宅においてその能力に応じ、生活機能の維持・向上を積極的に図り、要支援・要介護状態の予防及びその重症化の予防、軽減ができるよう介護（予防）通所リハビリテーションサービスを提供した。対象は要支援1・2もしくは、要介護1から5の方とし、個別リハ（理学療法・作業療法・言語聴覚療法）の実施に加えて自主トレーニングを行う時間を設け、1回およそ70分で行った。

ウ) 訪問リハビリテーション

利用者の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活活動の維持、回復を図るとともに、生活の質の確保を重視した在宅療養が継続できるように訪問リハビリテーションを通じた支援を行った。サービス提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

エ) 訪問看護ステーション

利用者の心身の特性を踏まえて、個々に応じたケアを実施することで心身の活力を維持し、より安全な在宅療養生活を送れるよう支援した。また、サービスの特性から地域におけるニーズとして、24時間・緊急時への対応が求められていることから、利用者が24時間安心して生活を送れるように24時間の緊急時の対応を行った。サービスの提供に当たっては、ケアマネジャーを始め、関係自治体、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図った。

オ) 地域リハビリテーション拠点事業

市民及び市内のリハビリテーション関係者へのリハビリテーションの重要性及び必要性の周知、市内のリハビリテーション関係者の育成、医療及び介護の連携強化等の目的から、リハビリ関係者向け講演会として研究大会、リハビリ関係者向け研修会として介護職員向け勉強会・地区勉強会・摂食栄養サポート勉強会を計画し、実行した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、集合形式でなく、Web（ZOOM）を活用した研修会を実施した。市民向けには、ふなばし健康まつりでステージを担当した他、体操を多く取り入れた「転倒予防体操」講座をリハビリセンターで開催した。刊行物やリーフレットも配布し、リハビリテーションの普及・啓発を図った。

また、リハビリテーションに関する実態を把握するため、回復期リハビリテーション病棟実態調査と高齢者数・要介護認定率と介護サービス推移の調査研究を行った。

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

カ) リハビリ事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用者の体調チェック・体温測定・手指消毒等の徹底を図った。

① パワーリハビリ教室

市内の身体機能の低下した高齢者等に対し、要介護状態等の予防や軽減、また、自立した生活をできるだけ実現すること等を主な目的として実施した。

② パワーリハビリフォローアップ

パワーリハビリ教室終了後の健康維持・体力作り、仲間との交流などを主な目的として実施した。

③ プールリハビリ

水がもつ特性を活かし、下半身への負担を軽減しながら高齢者の体力及び筋力の維持を目的として実施した。

3 地域連携・ネットワーキング

(1) 回復期病棟を持つ病院との連携

回復期病棟を持つ近隣の医療機関と連絡を取り合い、必要な市民が円滑にリハビリテーションサービスを受けられるよう情報交換を行った。

(2) 医師会との連携

クリニックやリハビリ事業を利用する患者・利用者を通じてかかりつけ医との連携を図った。リハビリセンター刊行物を発行し、医師会郵送物に同封してもらい、会員にリハビリテーション及びリハビリセンターの周知を図った。

(3) 地域の診療所や介護サービス事業者との連携

- ① 近隣医療機関と連絡をとり、情報交換を行った。
- ② 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク 地域リハ推進委員会」と連携し、地域リハビリテーション拠点事業の実施に反映させた。
- ③ 「船橋在宅医療ひまわりネットワーク役員会」に出席し、関係団体として協力した。
- ④ 「船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと」事務局に出向き、運営について情報交換を行った。
- ⑤ 「船橋市在宅医療支援拠点ふなぽーと」運営連絡調整会議に出席し、運営に協力した。
- ⑥ 船橋市ソーシャルワーカー連絡協議会と連絡を取り合い、会員である市内外のSWと情報交換を行った。
- ⑦ 「船橋市通所リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑧ 「船橋市訪問リハビリテーション連絡会」と連携を図り、会の運営に協力した。
- ⑨ 「ふなばし市訪問看護連絡協議会」と連携を図り、会の運営に協力した。

リハビリテーション総合相談件数（重複あり）

	センター事業に関する相談			センター以外に関する相談※	訪問看護に関する相談
	クリニック事業に関する相談	リハビリ事業に関する相談	その他		
令和4年4月	41	2	0	5	0
令和4年5月	21	5	0	5	0
令和4年6月	42	3	0	8	0
令和4年7月	39	1	0	6	0
令和4年8月	24	3	0	2	0
令和4年9月	15	0	0	4	0
令和4年10月	41	3	2	1	0
令和4年11月	24	4	1	2	0
令和4年12月	27	3	0	1	0
令和5年1月	32	1	0	4	0
令和5年2月	26	8	2	1	0
令和5年3月	32	4	0	7	0
計	364	37	5	46	0

※センター以外に関する相談の内容

- ・本人が来院され相談。近隣のサ高住に住んでいる。腰痛や肩こりがありマッサージを受けている。整形外科では、腰のところに棘のようなものがあり治らないと言われた。リハビリセンター通いたい。担当CMは施設内にいて、歩行器のレンタルをしている。
- 担当CMに相談するようアドバイスした。リハビリが良いのか、他のサービスが良いのかも含めて相談したほうが良いのではないかとお伝えした。後日CMから連絡あり、サービスについては本人の状態を考慮し検討する必要があるため相談を勧めてもらい良かったとのことであった。
- ・知人からの相談。船橋市に転居したばかり、股関節の痛みがあるため紹介状を記載してもらえないか。これまで股関節の痛みで受診はしていない。
- リハセンターはリハビリに関する診察のみで、診断や治療・投薬はしていないため、市内の整形外科を数ヶ所情報提供したところ、近場で受診可能なところに受診をするとのことであった。
- ・家族からの相談。母親が入所後急変し病院に入院した。そこで医療ミスがあり、体内に金属片がある状態。便と一緒にでるのを待っている。食事も取れておらず、母の体力も消耗している。病院とのやり取りは姉が行っており窓口が一本化していないため、電話に出たNSが場当たり的に対応している。包括支援センター・姉・Drでの3者面談の場は1度あった。対応が悪いため、転院したほうが良いのか、様子を見たほうが良いのか？
- 船橋市医療安全支援センターを情報提供。医療機関と患者の関係がうまく進むよう、公的な立場から中立的なアドバイスする機関であることを共有した。
- ・叔父から相談。60代半ばの姪が脳梗塞になった。回復期に転院するように言われたが、どこが良いか調べている。
- 入院中の病院にはSWがいるところであったため、本人の病状、援助する家族の事情を話して、病院を選択するよう勧めた。
- ・姪からの相談。独居82歳の叔父。足腰が弱り近場の買い物はできるが転倒もしているため心配。足があがりにくい、立ち上がりも困難になってきた。
- 介護保険申請を助言するとともに、介護保険の利用が精神的に抵抗があるようであれば、センターから遠方であったため、運動の場として公民館等でシルバーリハビリ体操を行っていることをお伝えした。
- ・本人からの相談、76歳女性、船橋市西部在住。最近転倒がある。介護保険を申請しリハをしたいが市役所のどこで手続きをしたら良いのか？
- 介護保険課、その他各出張所でも申請は可能であるため。自宅近くの出張所を案内した。
- ・CMからの相談。外来と通所のリハの違いについて確認したい。病院で外来リハ継続している。今後の方向はどうすれば良いだろうか？
- 医療保険と介護保険での実施するリハビリの違いについて説明した。その上で、今後の方向性は現在通院中の病院に相談してもらおうようお返事した。
- ・訪問リハの適用か見てほしいとCMからの相談。
- 本人宅を訪問したところ、訪問リハの適用ありと判断した。当センター訪問範囲外だったため、訪問リハビリを実施している他病院に移管した。

II 利用状況

船橋市リハビリセンターにおける令和4年度の利用実績は以下の通りである。
 なお、表示単位未満を端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

1 外来患者（一般診療・リハビリテーション）

(1) 外来リハビリテーション患者数 (単位：人)

	実患者数	延べ患者数
計	79	3,071

(2) 月別外来患者（延べ人数）内訳

診療日数	258
------	-----

① 外来リハビリテーション実績 (単位：人)

区分	新規（初診）	再診	計
令和4年4月	1	244	245
令和4年5月	2	242	244
令和4年6月	2	252	254
令和4年7月	0	219	219
令和4年8月	5	253	258
令和4年9月	2	242	244
令和4年10月	2	254	256
令和4年11月	3	263	266
令和4年12月	2	260	262
令和5年1月	4	258	262
令和5年2月	4	265	269
令和5年3月	2	290	292
合計	29	3042	3071
1日平均患者	0.1	11.8	11.9

② 一般診療実績（通所リハビリテーション利用者への診察） (単位：人)

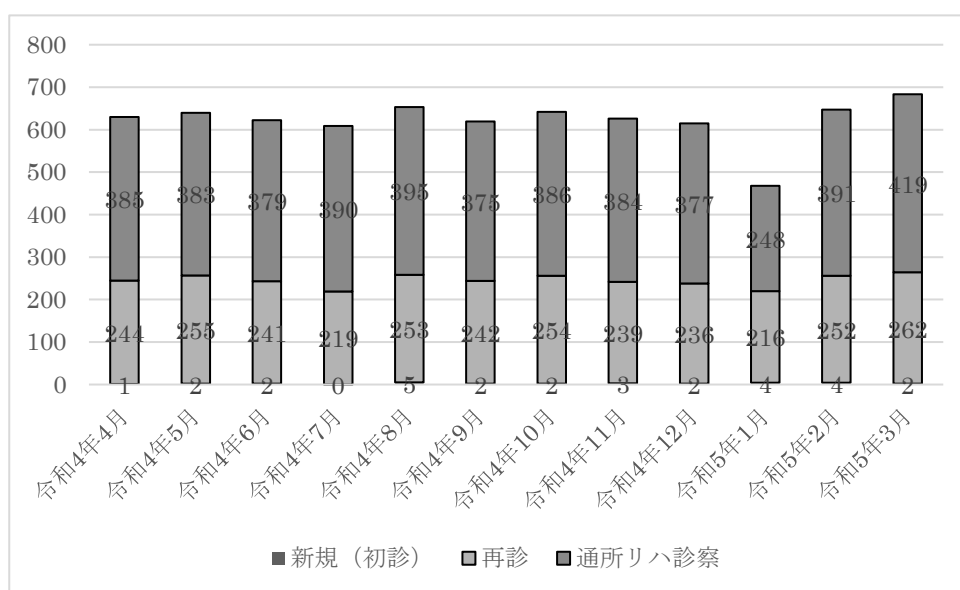
区分	通所リハ診察
令和4年4月	385
令和4年5月	383
令和4年6月	379
令和4年7月	390
令和4年8月	395
令和4年9月	375
令和4年10月	386
令和4年11月	384
令和4年12月	377

令和5年1月	248
令和5年2月	391
令和5年3月	419
合計	4,512
1日平均患者	17.5

③外来診療実績（①+②）

（単位：人）

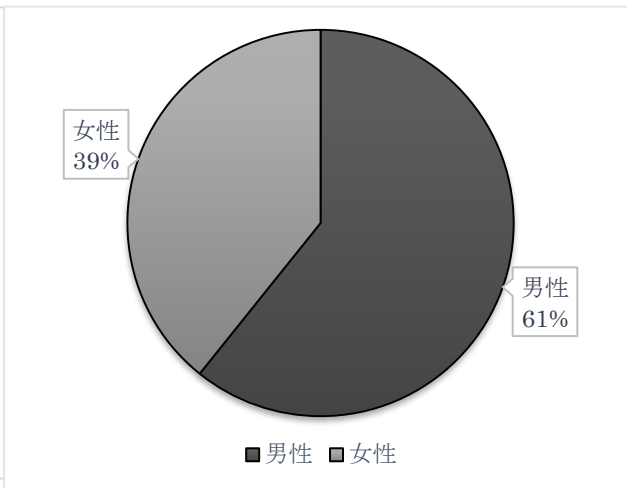
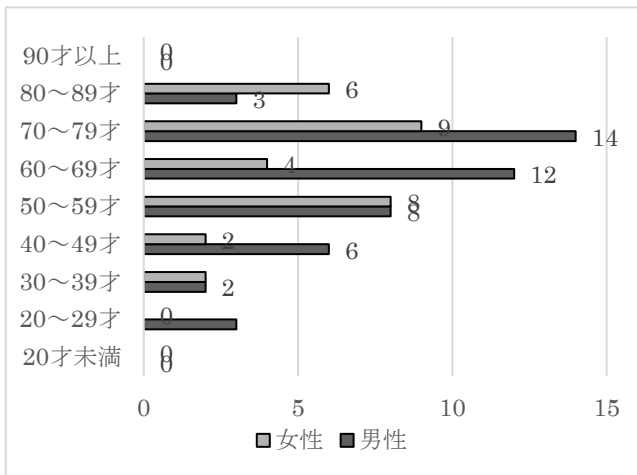
区分	新規（初診）	再診	通所リハ診察	計
令和4年4月	1	244	385	630
令和4年5月	2	242	383	627
令和4年6月	2	252	379	633
令和4年7月	0	219	390	609
令和4年8月	5	253	395	653
令和4年9月	2	242	375	619
令和4年10月	2	254	386	642
令和4年11月	3	263	384	650
令和4年12月	2	260	377	639
令和5年1月	4	258	248	510
令和5年2月	4	265	391	660
令和5年3月	2	290	419	711
合計	29	3042	4,512	7,583
1日平均患者	0.1	11.8	17.5	29.4



(3) 外来リハビリテーション年齢別・男女別外来患者内訳

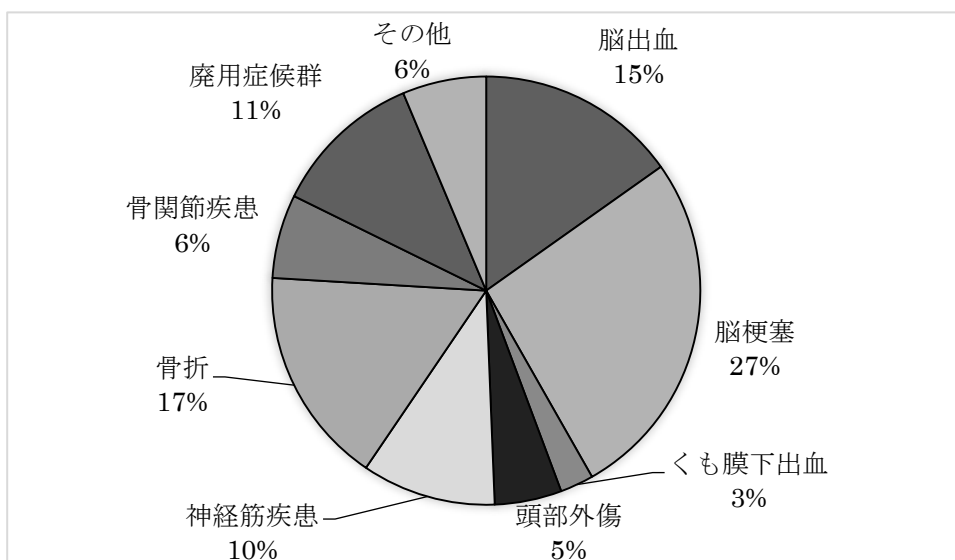
(単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.00%
20～29才	3	0	3	3.80%
30～39才	2	2	4	5.06%
40～49才	6	2	8	10.13%
50～59才	8	8	16	20.25%
60～69才	12	4	16	20.25%
70～79才	14	9	23	29.11%
80～89才	3	6	9	11.39%
90才以上	0	0	0	0.00%
合計	48	31	79	100%
平均年齢	60.6	65.9	62.2	



(4) 外来リハビリテーション疾患別外来患者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳出血	12	15.2%
脳梗塞	21	26.6%
くも膜下出血	2	2.5%
頭部外傷	4	5.1%
神経筋疾患	8	10.1%
骨折	13	16.5%
骨関節疾患	5	6.3%
廃用症候群	9	11.4%
その他	5	6.3%
合計	79	100.0%



(5) 外来リハビリテーション地域別外来患者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	9	11.39%
船橋市前原東	7	8.86%
船橋市習志野台	6	7.59%
船橋市前原西	6	7.59%
船橋市田喜野井	4	5.06%
船橋市二宮	4	5.06%
船橋市薬円台	4	5.06%
習志野市東習志野	2	2.53%
船橋市金杉	2	2.53%
船橋市三山	2	2.53%
船橋市駿河台	2	2.53%
船橋市中野木	2	2.53%
船橋市旭町	1	1.27%
船橋市栄町	1	1.27%
船橋市夏見台	1	1.27%
船橋市金杉台	1	1.27%
船橋市行田	1	1.27%
船橋市高野台	1	1.27%
船橋市七林町	1	1.27%
船橋市芝山	1	1.27%
船橋市習志野	1	1.27%
船橋市松が丘	1	1.27%
船橋市新高根	1	1.27%
船橋市西習志野	1	1.27%
船橋市大穴北	1	1.27%
船橋市滝台	1	1.27%
船橋市坪井東	1	1.27%
船橋市東町	1	1.27%
船橋市浜町	1	1.27%
船橋市本町	1	1.27%
その他県内	11	13.92%
合計	79	100.0%

2 通所リハビリテーション利用者数

(1) 通所リハビリテーション利用者数

(単位：人)

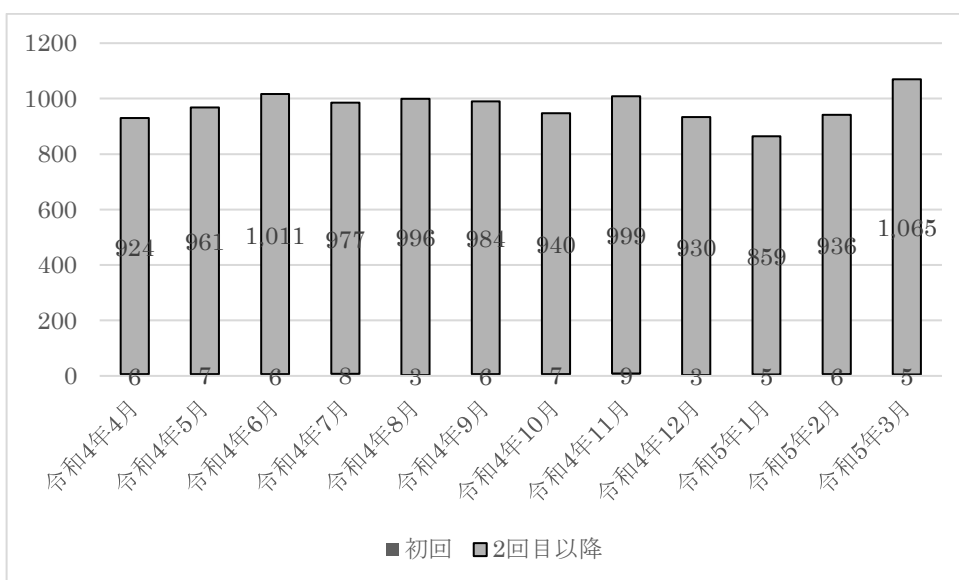
	実利用者数	延べ利用者数
計	231	11,653

(2) 月別通所リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

診療日数	258
------	-----

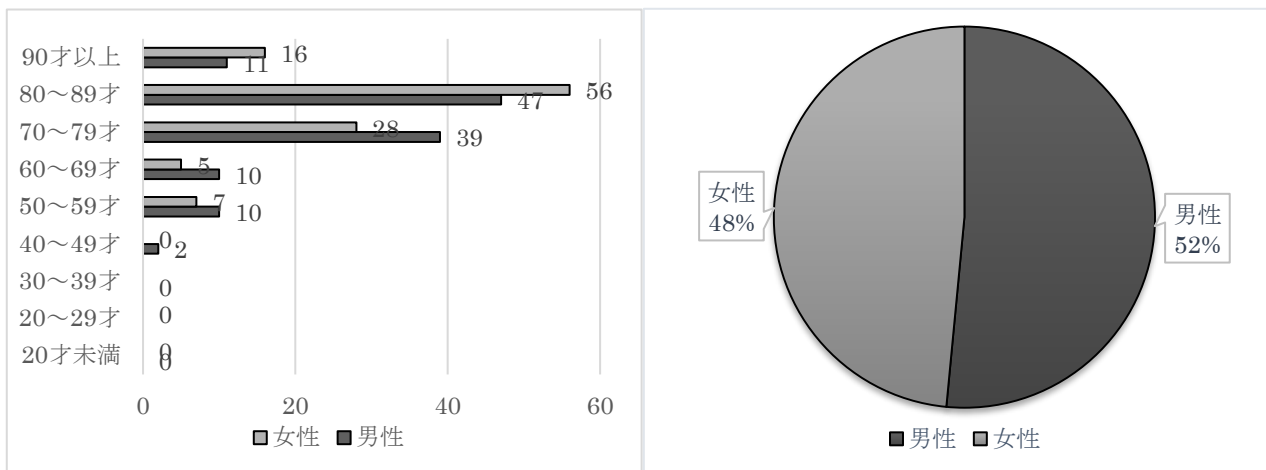
(単位：人)

区分	初回	2回目以降	計
令和4年4月	6	924	930
令和4年5月	7	961	968
令和4年6月	6	1,011	1,017
令和4年7月	8	977	985
令和4年8月	3	996	999
令和4年9月	6	984	990
令和4年10月	7	940	947
令和4年11月	9	999	1,008
令和4年12月	3	930	933
令和5年1月	5	859	864
令和5年2月	6	936	942
令和5年3月	5	1,065	1,070
合計	71	11,582	11,653
1日平均患者	0.3	44.9	45.2



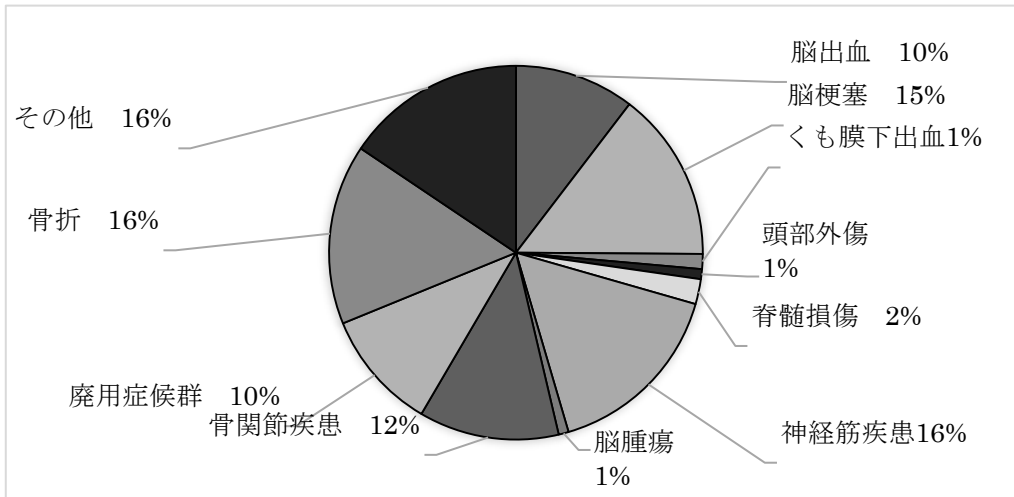
(3) 年齢別・男女別通所リハビリテーション利用者内訳 (単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	2	0	2	0.9%
50～59才	10	7	17	7.4%
60～69才	10	5	15	6.5%
70～79才	39	28	67	29.0%
80～89才	47	56	103	44.6%
90才以上	11	16	27	11.7%
合計	119	112	231	100.0%
平均年齢	76.6	80.3	78.4	



(4) 疾患別通所リハビリテーション利用者内訳

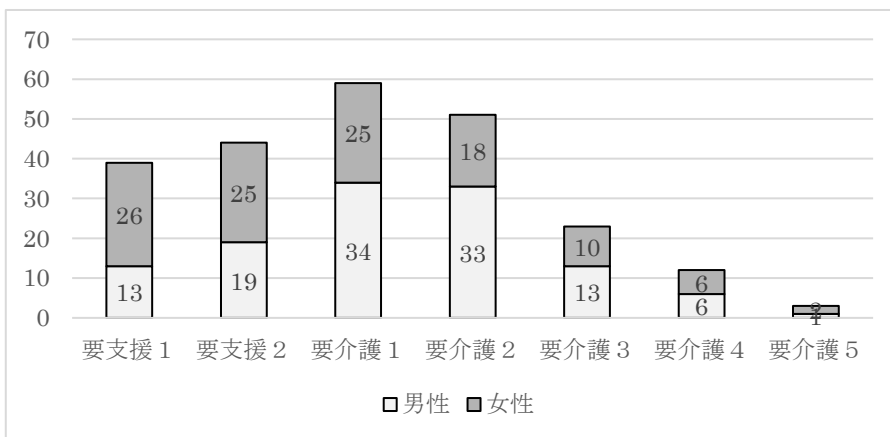
疾患名	患者数	構成割合
脳出血	24	10.4%
脳梗塞	34	14.7%
くも膜下出血	3	1.3%
頭部外傷	2	0.9%
脊髄損傷	5	2.2%
神経筋疾患	37	16.0%
脳腫瘍	2	0.9%
骨関節疾患	28	12.1%
廃用症候群	24	10.4%
骨折	36	15.6%
その他	36	15.6%
合計	231	100.0%



(5) 介護度別分類

(単位：人)

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	13	26	39	16.9%
要支援 2	19	25	44	19.0%
要介護 1	34	25	59	25.5%
要介護 2	33	18	51	22.1%
要介護 3	13	10	23	10.0%
要介護 4	6	6	12	5.2%
要介護 5	1	2	3	1.3%
合計	119	112	231	100.0%



(6) 地域別通所リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市飯山満町	58	25.11%
船橋市前原西	46	19.91%
船橋市前原東	28	12.12%
船橋市芝山	19	8.23%
船橋市二宮	14	6.06%
船橋市薬円台	13	5.63%
船橋市習志野台	9	3.90%
船橋市駿河台	7	3.03%
船橋市中野木	6	2.60%
船橋市三山	5	2.16%
船橋市高根台	3	1.30%
船橋市七林町	3	1.30%
船橋市田喜野井	3	1.30%
船橋市金杉	2	0.87%
船橋市習志野	2	0.87%
船橋市西習志野	2	0.87%
船橋市坪井東	2	0.87%
船橋市海神	1	0.43%
船橋市丸山	1	0.43%
船橋市宮本	1	0.43%
船橋市松が丘	1	0.43%
船橋市新高根	1	0.43%
船橋市大穴南	1	0.43%
船橋市滝台	1	0.43%
船橋市二和東	1	0.43%
その他県内	1	0.43%
合計	231	100.0%

3 訪問リハビリテーション利用者

(1) 訪問リハビリテーション利用者数

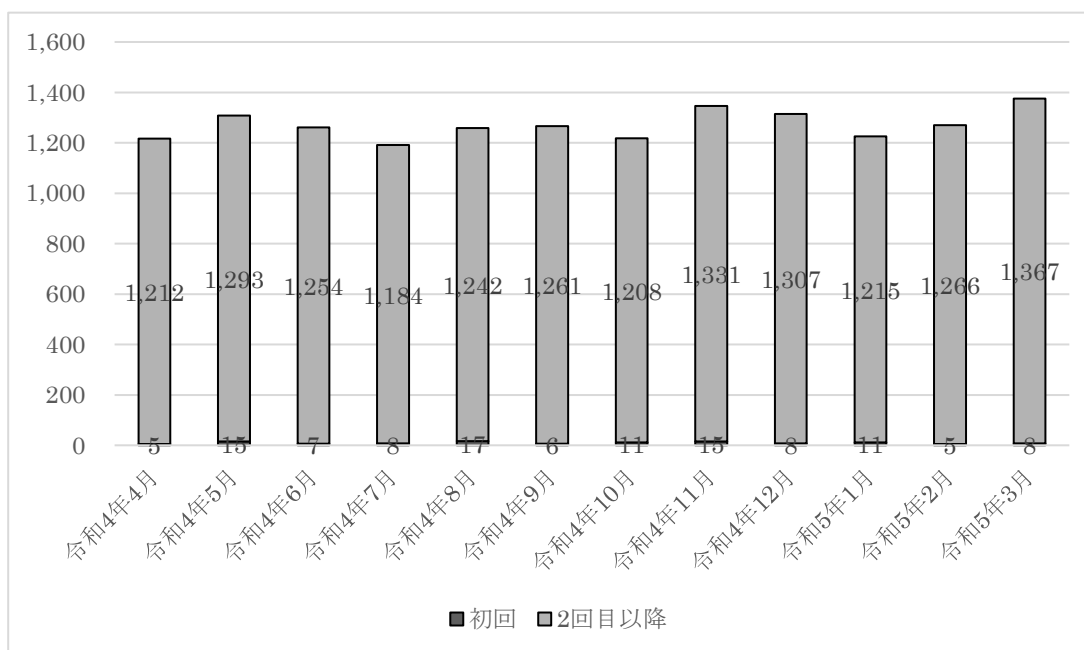
(単位：人)

	実利用者数	延べ利用者数
計	274	15,256

(2) 月別訪問リハビリテーション実績（延べ人数）内訳

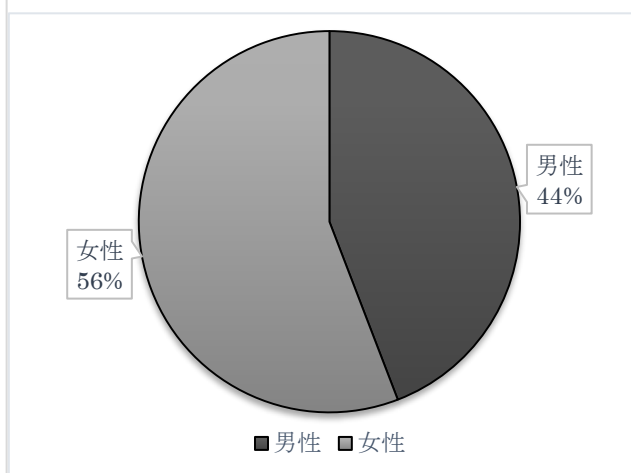
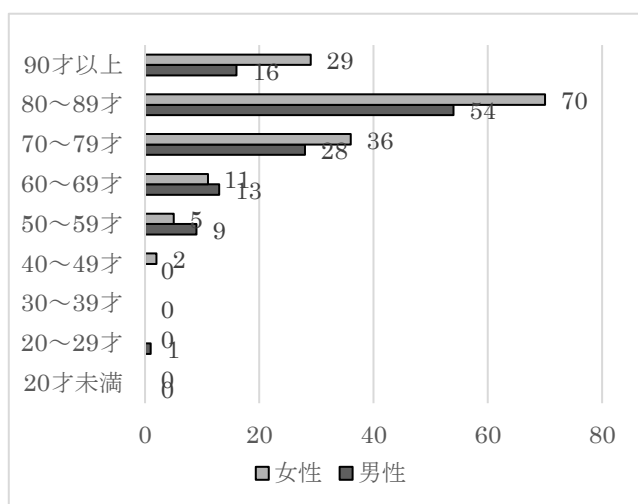
診療日数	258
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
令和4年4月	5	1,212	1,217
令和4年5月	15	1,293	1,308
令和4年6月	7	1,254	1,261
令和4年7月	8	1,184	1,192
令和4年8月	17	1,242	1,259
令和4年9月	6	1,261	1,267
令和4年10月	11	1,208	1,219
令和4年11月	15	1,331	1,346
令和4年12月	8	1,307	1,315
令和5年1月	11	1,215	1,226
令和5年2月	5	1,266	1,271
令和5年3月	8	1,367	1,375
合計	116	15,140	15,256
1日平均患者	0.4	58.7	59.1



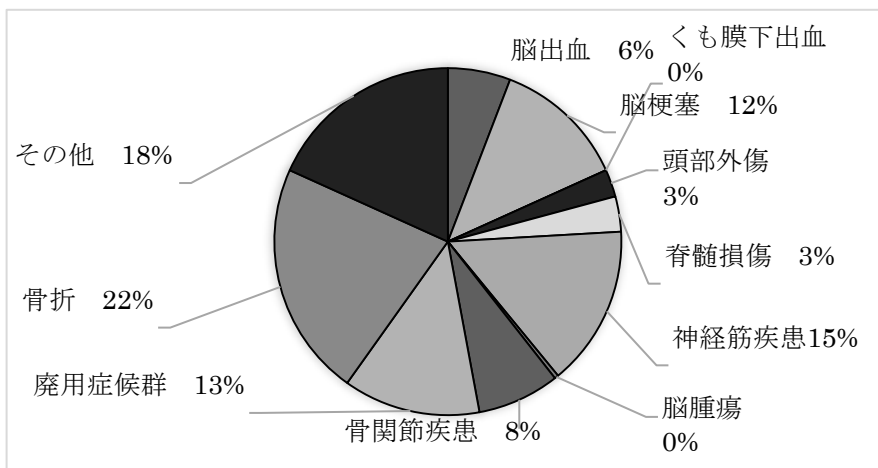
(3) 年齢別・男女別訪問リハビリテーション利用者内訳 (単位：人)

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	1	0	1	0.4%
30～39才	0	0	0	0.0%
40～49才	0	2	2	0.7%
50～59才	9	5	14	5.1%
60～69才	13	11	24	8.8%
70～79才	28	36	64	23.4%
80～89才	54	70	124	45.3%
90才以上	16	29	45	16.4%
合計	121	153	274	100.0%
平均年齢	79.0	81.1	80.1	



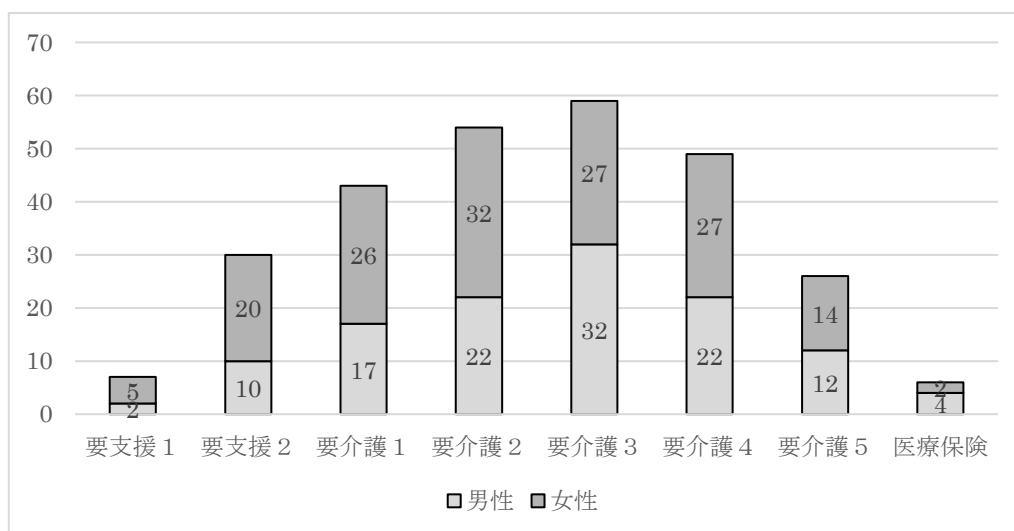
(4) 疾患別訪問リハビリテーション利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合
脳出血	16	5.8%
脳梗塞	34	12.4%
くも膜下出血	0	0.0%
頭部外傷	7	2.6%
脊髄損傷	9	3.3%
神経筋疾患	41	15.0%
脳腫瘍	1	0.4%
骨関節疾患	21	7.7%
廃用症候群	35	12.8%
骨折	60	21.9%
その他	50	18.2%
合計	274	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	2	5	7	2.6%
要支援 2	10	20	30	10.9%
要介護 1	17	26	43	15.7%
要介護 2	22	32	54	19.7%
要介護 3	32	27	59	21.5%
要介護 4	22	27	49	17.9%
要介護 5	12	14	26	9.5%
医療保険	4	2	6	2.2%
合計	121	153	274	100.0%



(6) 地域別訪問リハビリテーション利用者内訳

地域	患者数	構成割合
船橋市習志野台	34	12.41%
船橋市飯山満町	33	12.04%
船橋市前原西	31	11.31%
船橋市三山	23	8.39%
船橋市芝山	23	8.39%
船橋市前原東	22	8.03%
船橋市高根台	17	6.20%
船橋市田喜野井	16	5.84%
船橋市二宮	12	4.38%
船橋市西習志野	10	3.65%
船橋市薬円台	6	2.19%
船橋市松が丘	5	1.82%
船橋市習志野	4	1.46%
船橋市滝台	4	1.46%
船橋市緑台	4	1.46%
船橋市東船橋	3	1.09%
船橋市七林町	2	0.73%
船橋市駿河台	2	0.73%
船橋市新高根	2	0.73%
船橋市中野木	2	0.73%
船橋市坪井西	2	0.73%
船橋市坪井東	2	0.73%
船橋市宮本	1	0.36%
船橋市市場	1	0.36%
船橋市大穴南	1	0.36%
船橋市滝台町	1	0.36%
船橋市薬園台	1	0.36%
その他県内	10	3.65%
合計	274	100.0%

4 訪問看護利用者

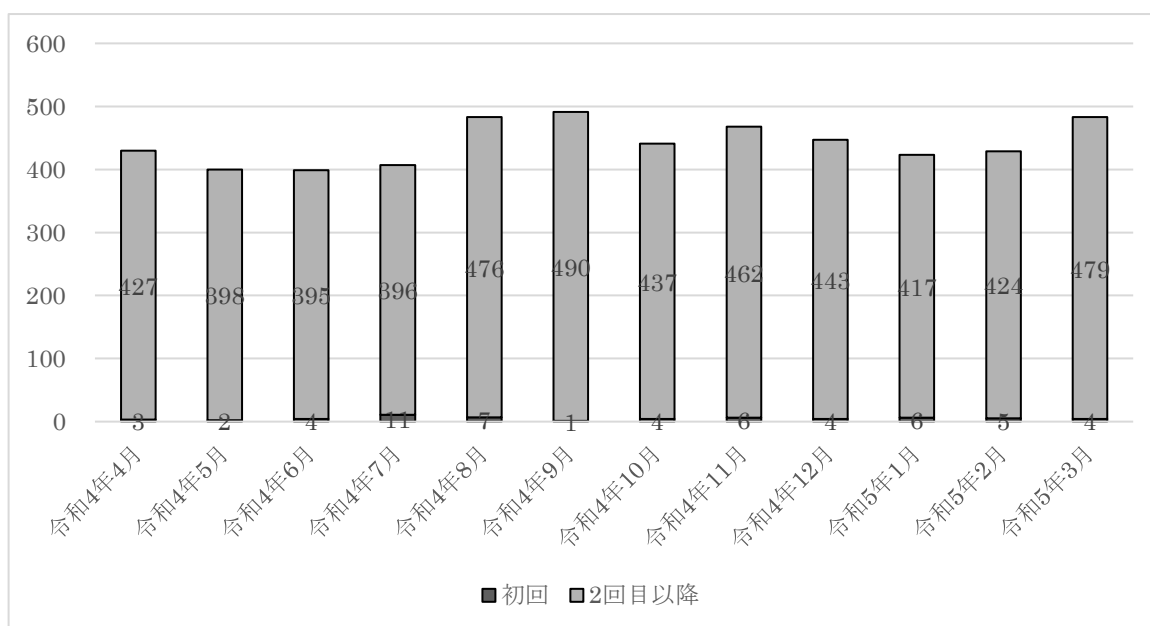
(1) 訪問看護利用者数

	実利用者数	延べ利用者数
計	137	5,301

(2) 月別訪問看護利用者（延べ人数）内訳

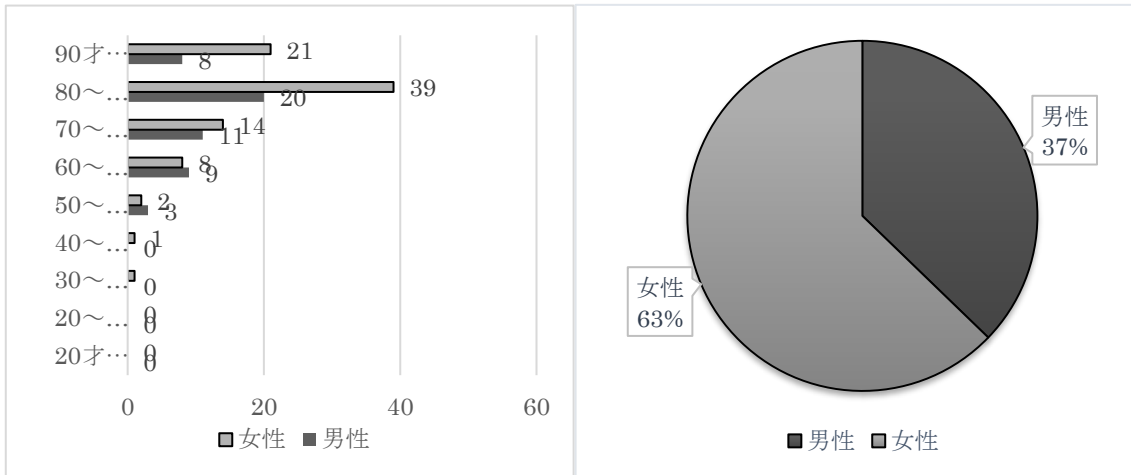
診療日数	258
------	-----

区分	初回	2回目以降	計
令和4年4月	3	427	430
令和4年5月	2	398	400
令和4年6月	4	395	399
令和4年7月	11	396	407
令和4年8月	7	476	483
令和4年9月	1	490	491
令和4年10月	4	437	441
令和4年11月	6	462	468
令和4年12月	4	443	447
令和5年1月	6	417	423
令和5年2月	5	424	429
令和5年3月	4	479	483
合計	57	5,244	5,301
1日平均患者	0.2	20.3	20.5



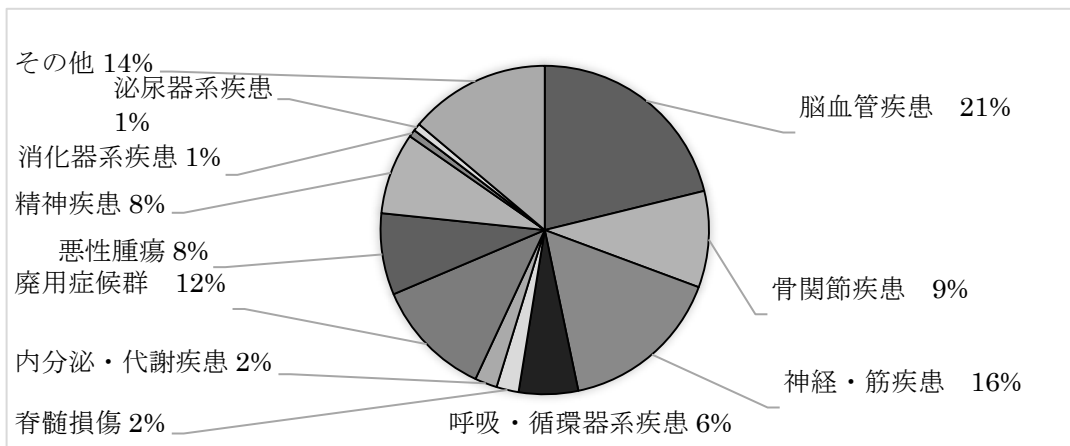
(3) 年齢別・男女別訪問看護利用者内訳

年齢	男性	女性	合計	構成割合
20才未満	0	0	0	0.0%
20～29才	0	0	0	0.0%
30～39才	0	1	1	0.7%
40～49才	0	1	1	0.7%
50～59才	3	2	5	3.6%
60～69才	9	8	17	12.4%
70～79才	11	14	25	18.2%
80～89才	20	39	59	43.1%
90才以上	8	21	29	21.2%
合計	51	86	137	100.0%
平均年齢	78.4	82.3	80.8	



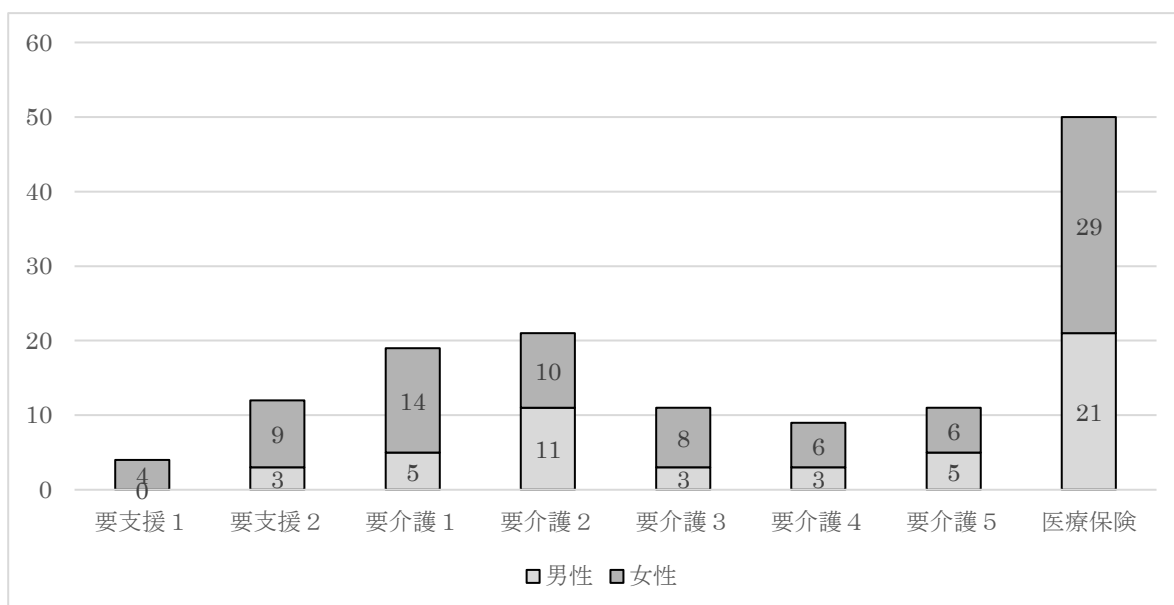
(4) 疾患別訪問看護利用者内訳

疾患名	患者数	構成割合%
脳血管疾患	29	21.2%
骨関節疾患	13	9.5%
神経・筋疾患	22	16.1%
呼吸・循環器系疾患	8	5.8%
脊髄損傷	3	2.2%
内分泌・代謝疾患	3	2.2%
廃用症候群	16	11.7%
悪性腫瘍	11	8.0%
精神疾患	11	8.0%
消化器系疾患	1	0.7%
内科系疾患	0	0.0%
泌尿器系疾患	1	0.7%
その他	19	13.9%
合計	137	100.0%



(5) 介護度別分類

	男性	女性	合計	構成割合
要支援 1	0	4	4	2.9%
要支援 2	3	9	12	8.8%
要介護 1	5	14	19	13.9%
要介護 2	11	10	21	15.3%
要介護 3	3	8	11	8.0%
要介護 4	3	6	9	6.6%
要介護 5	5	6	11	8.0%
医療保険	21	29	50	36.5%
合計	51	86	137	100.0%



(6) 地域別訪問看護利用者内訳

地域	患者数	構成割合%
船橋市飯山満町	22	16.06%
船橋市芝山	18	13.14%
船橋市前原西	14	10.22%
船橋市二宮	14	10.22%
船橋市三山	7	5.11%
船橋市前原東	7	5.11%
船橋市高根台	6	4.38%
船橋市田喜野井	5	3.65%
船橋市薬円台	5	3.65%
船橋市金杉	3	2.19%
船橋市七林町	3	2.19%
船橋市習志野台	3	2.19%
船橋市東船橋	3	2.19%
船橋市東町	3	2.19%
船橋市緑台	3	2.19%
船橋市夏見	2	1.46%
船橋市夏見台	2	1.46%
船橋市習志野	2	1.46%
船橋市駿河台	2	1.46%
船橋市坪井西	2	1.46%
船橋市金杉台	1	0.73%
船橋市三咲	1	0.73%
船橋市若松	1	0.73%
船橋市松が丘	1	0.73%
船橋市新高根	1	0.73%
船橋市西習志野	1	0.73%
船橋市滝台	1	0.73%
船橋市浜町	1	0.73%
船橋市本町	1	0.73%
習志野市津田沼	1	0.73%
習志野市藤崎	1	0.73%
合計	137	100.0%

5 地域リハビリテーション拠点事業

項目	回数
リハビリ関係者向け講演会	2回
リハビリ関係者向け研修会	6回+動画2本
市民向け講演会	1回+動画1本
市民向け研修会	3回

参加者総数	693	(単位：人)
-------	-----	--------

(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)

6 リハビリ事業

(1) パワーリハビリ教室

① パワーリハビリ教室 利用者数

	延べ利用者数
計	1379

③ 月別パワーリハビリ教室（延べ人数）内訳

実日数	88
-----	----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和4年4月	116	16
令和4年5月	103	16
令和4年6月	107	16
令和4年7月	135	18
令和4年8月	126	17
令和4年9月	97	18
令和4年10月	127	17
令和4年11月	126	17
令和4年12月	78	17
令和5年1月	134	18
令和5年2月	118	18
令和5年3月	112	17
合計	1379	—
1日平均患者	15.7	—

(2) パワーリハビリフォローアップ

①パワーリハビリフォローアップ 利用者数

	延べ利用者数
計	11,891

②月別パワーリハビリフォロー（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和4年4月	959	256
令和4年5月	934	256
令和4年6月	1041	254
令和4年7月	956	270
令和4年8月	1041	269
令和4年9月	941	269
令和4年10月	1027	285
令和4年11月	1020	275
令和4年12月	960	275
令和5年1月	906	290
令和5年2月	953	289
令和5年3月	1153	288
合計	11,891	—
1日平均患者	42.6	—

(3) プールリハビリ

①プールリハビリ 利用者数

	延べ利用者数
計	4,442

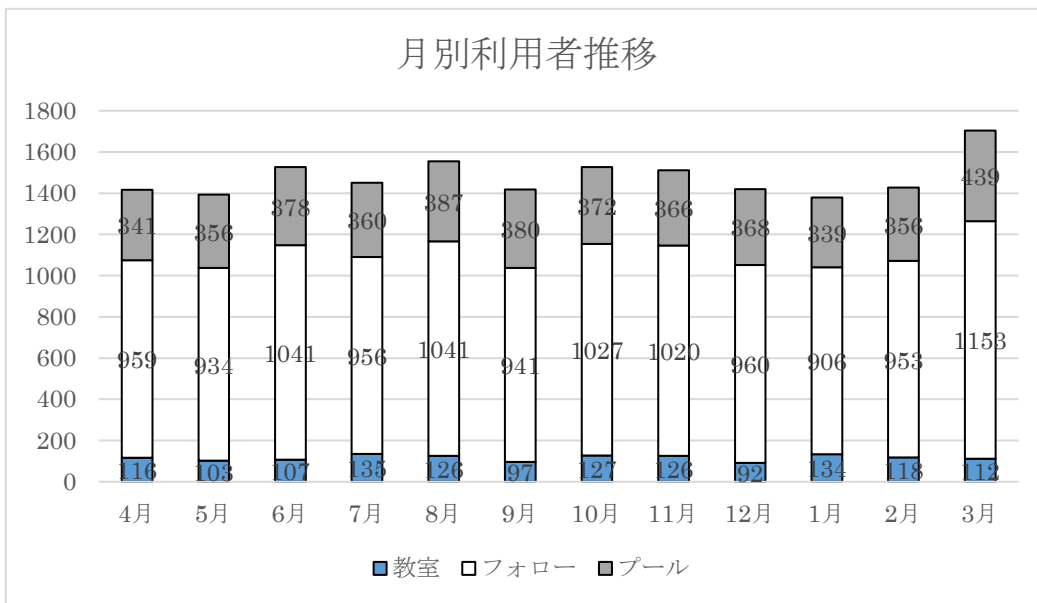
②月別プールリハビリ（延べ人数）内訳

実日数	244
-----	-----

(単位：人)

区分	利用者数	登録者数
令和4年4月	341	131
令和4年5月	356	134
令和4年6月	378	134
令和4年7月	360	140
令和4年8月	387	143
令和4年9月	380	147

令和4年10月	372	150
令和4年11月	366	152
令和4年12月	368	153
令和5年1月	339	154
令和5年2月	356	157
令和5年3月	439	159
合計	4,442	—
1日平均患者	16.1	—



Ⅲ 収支状況

令和4年度における船橋市リハビリセンターの収支は以下の通りである。

なお、表示単位未満を端数処理しているため、合計と一致しない場合がある。

単位：千円

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ 拠点事業	施設管理	合計
医業 収益	利 用 料	0	0	6,204	0	0	6,204
	指 定 管 理 委 託 料	0	0	18,788	25,646	24,683	69,117
	医 療 ・ 外 来 収 益	29,543	0	0	0	0	29,543
	介 護 ・ 外 来 収 益	173,010	26,531	0	0	0	199,541
	受 託 検 査 ・ 施 設 利 用 収 益	107	0	0	0	0	107
	訪 問 看 護 収 益	0	17,837	0	0	0	17,837
	そ の 他 医 業 収 益	629	349	0	0	0	977
計	203,289	44,716	24,992	25,646	24,683	323,326	
	保 険 等 査 定 減	-3	23	0	0	0	20
	計	203,286	44,739	24,992	25,646	24,683	323,346
	医 業 費 用	216,816	45,866	21,658	10,308	17,207	311,855
	医 業 利 益	-13,530	-1,127	3,334	15,338	7,476	11,491
	本 部 配 賦 額	0	0	0	0	0	0
	事 業 利 益	-13,530	-1,127	3,334	15,338	7,476	11,491
医業外 収益	受 取 利 息 配 当 金	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 売 却 益	0	0	0	0	0	0
	患 者 外 給 食 収 益	0	0	0	0	0	0
	補 助 金 ・ 負 担 金	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 医 業 外 収 益	1,805	1,225	0	0	0	3,030
計	1,805	1,225	0	0	0	3,030	
医業外 費用	支 払 利 息	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 売 却 損	0	0	0	0	0	0
	患 者 外 給 食 材 料 費	0	0	0	0	0	0
	診 療 費 減 免	0	0	0	0	0	0
	貸 倒 損 失	0	0	0	0	0	0
	貸 倒 引 当 金 繰 入 額	0	0	0	0	0	0
	資 産 に 係 る 控 除 対 象 外 消 費 税	0	0	0	0	0	0
繰 延 消 費 税 等 償 却	0	0	0	0	0	0	
そ の 他 医 業 外 費 用	13	4	0	0	0	17	
計	13	4	0	0	0	17	
	経 常 利 益	-11,738	93	3,334	15,338	7,476	14,503
特 別 利 益	固 定 資 産 売 却 益	0	0	0	0	0	0
	施 設 設 備 補 助 金 等 収 入	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 利 益	0	0	0	0	0	0
特 別 損 失	固 定 資 産 廃 棄 売 却 損	0	0	0	0	0	0
	施 設 設 備 補 助 金 等 積 立 金 繰 入	0	0	0	0	0	0
	有 価 証 券 評 価 損	0	0	0	0	0	0
	そ の 他 の 特 別 損 失	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	
	税 引 前 当 期 純 利 益	-11,738	93	3,334	15,338	7,476	14,503
	法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税 負 担 額	0	0	0	0	0	0
	税 金 等 調 整 額	0	0	0	0	0	0
	当 期 純 利 益	-11,738	93	3,334	15,338	7,476	14,503

医業費用内訳

		診療所	訪問看護	リハビリ事業	地域リハ拠点事業	施設管理	合計
給与費	給料	148,971	31,985	12,859	5,020	0	198,835
	賞与	15,898	3,694	1,804	685	0	22,081
	賞与引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	退職給付費用	1,984	275	191	190	0	2,640
	法定福利費	21,926	5,614	2,063	871	0	30,474
	計	188,779	41,567	16,917	6,766	0	254,030
材料費	医薬品費	69	0	3	0	0	72
	診療材料費	719	18	125	0	0	862
	医療消耗器具備品費	9	0	14	0	0	23
	給食用材料費	0	0	0	0	0	0
	計	797	18	141	0	0	956
委託費	検査委託費	7	0	0	0	0	7
	給食委託費	0	0	0	0	0	0
	寝具委託費	0	0	0	0	0	0
	医事委託費	0	0	0	0	0	0
	清掃委託費	0	0	0	0	6,600	6,600
	保安委託費	0	0	0	0	103	103
	その他委託費	2,362	277	298	280	7,392	10,609
計	2,369	277	298	280	14,095	17,319	
設備関係費	減価償却費	1,861	586	387	0	0	2,833
	機器賃借料	0	0	0	0	0	0
	地代家賃	6,172	335	0	0	0	6,507
	修繕費	17	17	117	0	110	261
	固定資産税等	20	0	4	0	0	24
	機器保守費	2,561	378	345	0	0	3,283
	機器設備保険料	0	0	0	0	0	0
	車両関係費	4,261	1,015	231	0	700	6,207
計	14,892	2,330	1,084	0	810	19,116	
研究費	研究費	0	0	0	0	0	0
	研修費	153	37	2	59	0	251
	計	153	37	2	59	0	251
経費	福利厚生費	145	5	86	1	0	237
	募集採用費	9	0	0	0	0	9
	旅費交通費	12	35	1	17	0	65
	職員被服費	1,926	325	107	46	0	2,404
	通告宣伝費	1,287	575	243	168	0	2,274
	広告宣伝費	122	6	17	257	0	402
	消耗品費	1,634	247	332	167	197	2,577
	消耗器具備品費	533	55	13	0	0	601
	図書費	227	26	0	0	0	253
	会議費	30	0	0	30	0	60
	水道光熱費	2,370	268	0	0	0	2,637
	賃借料	140	0	20	0	0	159
	保険料	203	33	80	0	0	316
	交際費	27	0	0	0	0	27
	諸会費	384	37	0	0	0	421
	租税公課	-4	26	2,249	2,320	2,105	6,697
	貸倒損失	0	0	1	0	0	1
	貸倒引当金繰入	0	0	0	0	0	0
	支払手数料	462	0	66	195	0	723
寄付金	0	0	0	0	0	0	
雑費	321	0	0	0	0	321	
計	9,827	1,637	3,216	3,202	2,302	20,184	
	0	0	0	0	0	0	
合計	216,816	45,866	21,658	10,308	17,207	311,855	

IV 中期目標の達成状況及び中期行動計画の実施状況報告

1. 利用者及びその家族に対して提供するサービスに関する事項

I 外来患者について

目標1 利用者アンケートによる患者満足度

令和4年度目標：

1. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③待ち時間についてご満足いただけましたか。
2. 外来患者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和4年度実績： 各項目で目標を達成した

1. 外来患者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 84.9%
「満足」のみの割合 : 69.7%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 93.9%
「満足」のみの割合 : 81.8%
 - ③待ち時間について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 87.9%
「満足」のみの割合 : 78.8%
2. 外来患者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 88.6%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 84.8%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、センター内ラウンドを月一回実施した。委員会では令和4年度の接遇目標を作成し、職員に周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、接遇に優れるスタッフを職員の投票により選出し、選ばれたスタッフを表彰した。

② 待合室に関するサービスの向上

外来の待合室については、受付のレイアウトを来院する患者・利用者の様子を確認し易いよう工夫をし、患者、利用者の待ち時間に対する負担軽減に取り組んだ。

③ 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上

患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

④ リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

⑤ 御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

⑥ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用を必須としたが、体調や表情が読み取りにくくなることに留意して対応するよう職員に周知した。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

外来患者へのアンケート①から③の満足度においては、各項目で目標を達成した。

リハビリテーションの質・技術については、前年度（「満足」と「やや満足」を足した割合83.3%、「満足」のみ75.0%）と比較すると「満足」と「やや満足」を足した割合では向上した。引き続き個別リハビリの内容について十分な説明と同意のもと取り組み、目標を達成するよう努める。待ち時間については「満足」と「やや満足」を足した割合（昨年度91.7%→今年度87.9%）、満足のための割合（昨年度83.3%→今年度78.8%）共に前年度より満足度が低下した。改めて、診療からスムーズにリハビリが開始できる体制を見直し改善に努める。

外来患者へのアンケート④の満足度は昨年度100%から88.6%と減少したが目標は達成できた。⑤の満足度は100%から84.8%と減少し目標も達成できなかった。日常生活で効果が実感できる質の高いリハビリテーションを実施できるように改善に努める。

令和5年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

II 通所リハビリ利用者について

目標2 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和4年度目標：

令和4年4月から令和5年3月において指定通所リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の10以上とする。

令和4年度実績： 12.3%であり、目標を達成できた

① 令和4年4月から令和5年3月の評価対象期間における通所リハビリテーション終了者数：57名

② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：7名

※通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業等へのサービス移行、または、居宅における家庭での役割を担うことができ通所リハビリテーションを終了した数。

③ ①に占める②の割合： 12.3%

(内訳)

・目標達成 7名 (内デイサービスへの移行4名)

リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・歩行能力向上を目指し、センターまで歩けるようになれば、センターのリハビリ事業を利用する。	センターまで歩行で来ることができるようになり、リハビリ事業を開始した。
・歩行耐久性向上 膝に負担がかかりにくい生活動作を獲得する。買い物が続く。 運動機会を求めるのであれば、運動特化型デイなどにつないでいく。	歩行耐久性が向上し、リハビリセンターリハビリ事業を開始した。
・杖歩行にて公共交通機関の利用が継続できる。 ・就労に当たり業務内容を検討できる。	外来から通所へ移行。歩行能力が向上し、気持ちも前向きになり、就職活動後に就労開始。

目標達成に対する活動状況について

①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき、通所リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。

②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者の日常生活動作（ADL）と外出や買い物等の手段的生活動作（IADL）が向上し、社会参加に資す

る他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。

③リハビリを担当する職員が、終了した利用者または、担当の介護支援専門員から、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。

④終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は12.3%であった。利用者個々に目標を設定し、リハビリテーションプランを実行してきたが、設定目標の10%を達成できた。令和5年度も、個々に合った目標を設定し、達成に向け、リハビリテーションプランを実行するとともに、通所系サービス事業所等関係機関と連携を図り、利用者の生活の質向上に寄与するよう、働きかけていく。

目標3 利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数7年以上の者の占める割合100分の30以上

令和4年度目標：

利用者に直接提供する職員のうち、勤続年数7年以上のスタッフが占める割合を100分の30以上とする。

令和4年度実績：100.0%であり、目標を達成した

勤続年数7年以上の者の占める割合：56.5%

(全体の職員数23人　うち勤続年数7年以上の職員数13人)

経験年数	人数
3年未満	0人
3～6年	10人
7～10年	6人
10年以上	7人

目標達成に対する活動状況について

- ①法人本部に設置する人財育成局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数7年以上の占める割合は56.5%と目標を達成し、一定以上の質が保たれた介護サービスが提供できたと言える。

令和5年度も引き続き、在宅生活を支援するための介護サービスの充実を図る。

目標4 利用者アンケートによる患者満足度

令和4年度目標：

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」のみの割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③通所リハビリの計画についてご満足いただけましたか。
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和4年度実績：各項目で目標を達成した

1. 通所リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①個別リハビリテーションについて
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 92.0%
「満足」のみの割合 : 62.3%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 94.2%
「満足」のみの割合 : 78.3%
 - ③通所リハビリの計画について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 81.9%
「満足」のみの割合 : 58.0%
2. 通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 92.2%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 92.0%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
サービス向上委員会を設置し、センター内ラウンドを月一回実施した。委員会では令和4年度の接遇目標を作成し、全体会議にて周知した他、接遇の達成度を振り返った。
また、接遇に優れるスタッフを職員の投票により選出し、選ばれたスタッフを表彰した。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づき、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。ま

た、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④御意見箱の設置

満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

通所リハビリ利用者へのアンケートの満足度は①②は目標を達成したが③は目標を達成できなかった。③の通所リハビリの計画については「満足」のみの割合で58.0%と目標未達成であった。より具体的でわかりやすいリハビリ計画の立案と利用者への丁寧な説明を実施するなど改善に努める。

通所リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度は目標を達成できた。これらことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和5年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

Ⅲ 訪問リハビリ利用者について

目標5 各利用者がリハビリテーションマネジメントにおいて設定した目標の達成率

令和4年度目標：

令和4年4月から令和5年3月において指定訪問リハビリテーションの提供を終了した者のうち、リハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施した者の占める割合が100分の20以上とする。

令和4年度実績： 9.7%であり、目標を達成できなかった

- ① 令和4年4月から令和5年3月の評価対象期間における指定訪問リハビリテーション終了者数：124名
- ② ①のうちリハビリテーションマネジメントにおいて目標とした取り組みを実施し、リハビリの提供を終了した利用者数：12名
- ※通所リハビリテーション、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、介護予防・日常生活支援総合事業における通所事業や一般介護予防事業へのサービス移行、または、居宅における家庭での役割を担うことができ訪問リハビリテーションを終了した数。
- ③ ①に占める②の割合： 9.7%

内訳)

- ・ 目標達成 12名（内通所リハビリへ移行は6名）
リハビリを開始するにあたっての目標と達成事例

開始目標	終了時の達成状況
・ 屋外歩行が安全に出来るようになる。	・ 図書館に行くという目標も達成。上肢の自主トレも定着。活動量もある程度確保できている。
・ 自宅内、自宅周辺を安全に移動することが出来る。	・ 転倒なく生活は行えており、ゴミ捨てに行くことも可能。自主トレも定着した。
・ 散歩や買い物自立(公園や近隣ドラッグストアやスーパー)	・ バスや電車を利用した外出ができるようになった。
・ 下肢筋力を向上させ、転倒なく歩行での移動ができる	・ 1日8000～9000歩は歩けるようになり、雨の中買い物に行くことができるようになった。自主トレも継続可能になった。
・ 下肢機能向上、嚥下機能の維持 ・ 自宅で転倒せずに歩行が継続できる。安全な設定での食事ができる ・ 自宅周辺での散歩が行える	・ 喉の筋トレを自主トレとして継続して行うことができるようになった。 ・ 自宅周辺を1周 歩行器使用 所要時間35分でできるようになった。(途中休憩なし) ・ 装具がなくても、クリアランスは保てており危険場面なし。

	<ul style="list-style-type: none"> ・右下肢の筋力、バランス能力向上 ・近所の歩行自立し、公民館での集まりに参加できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族と近隣の散策などができるようになった。玄関やトイレ、お風呂場の改修にて、入浴動作も自立した。
--	--	---

目標達成に対する活動状況について

- ①介護報酬制度によるリハビリテーションマネジメントに基づき（平成27年3月27日 老老発0327 第3号 リハビリテーションマネジメント加算等に関する基本的な考え方並びにリハビリテーション計画書等の事務処理手順及び様式例の提示について）訪問リハビリテーションを利用する利用者全てにリハビリテーション計画書を作成し、利用者の健康状況、心身機能、活動の参加状況を計画書に記録した。
- ②社会参加へ移行ができるよう利用者のリハビリテーション計画を基に、リハビリテーションを提供することで、利用者のADLとIADLが向上し、社会参加に資する他のサービス等に移行できるなど、質の高いリハビリテーションを提供した。
- ③リハビリを担当する職員が、終了した利用者に対して、その居宅を訪問し、リハビリテーション計画書の項目を活用しながら、リハビリテーションの提供を終了した時と比較して、ADLとIADLが維持又は改善していることを確認した。
- ④また、居宅に訪問しADLとIADLの状況を確認することが困難な場合は、担当の介護支援専門員から居宅サービス計画の提供を依頼するなど、社会参加に資する取組の実施を確認するとともに、電話等の手段を用いて、ADLとIADLの情報を確認した。
- ⑤終了した利用者の状態の悪化又はその恐れがある場合や参加が維持されていなかった場合は、利用者及び家族に適切な助言を行い、医師又は介護支援専門員へ情報を提供した。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリを終了した利用者において、リハビリテーションマネジメントの目標を達成した割合は9.7%であった。利用者個々に目標を設定し、リハビリテーションプランを実行してきたが、設定目標の20%を達成できなかった。移行支援加算で求められる5%は達成しているため、方向性は間違っていないと考える。令和5年度も、個々に合った目標を設定し、達成に向け、リハビリテーションプランを実行するとともに、通所系サービス事業所等関係機関と連携を図り、利用者の生活の質向上に寄与するよう、働きかけていく。

目標6 利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合100分の30以上

令和4年度目標：

利用者に直接提供する理学療法士・作業療法士又は言語聴覚士のうち、勤続年数3年以上の者の占める割合を100分の30以上とする。

令和4年度実績：100%であり、目標を達成した

勤続年数3年以上の者の占める割合：**100%**

理学療法士 13人（うち勤続年数3年以上の者）13人

作業療法士 6人（うち勤続年数3年以上の者）6人

言語聴覚士 2人（うち勤続年数3年以上の者）2人

目標達成に対する活動状況について

①法人本部に設置する人財育成局を通じ、船橋市リハビリセンター以外の拠点からの人事異動を可能にし、回復期リハビリテーション病棟で法人の理念や、基礎的なリハビリテーション技術を取得した職員を配置することに努めた。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

リハビリテーションニーズへの対応や質の高い介護サービスを確保する観点から、リハビリスタッフの安定的な確保を図るとともに、更なる資質向上への取り組みを推進した。その結果、直接従事する職員のうち勤続年数3年以上の占める割合は100%の実績であり、一定以上の質が保たれたサービスが提供できたと言える。

令和5年度も引き続き、在宅生活を支援するためのサービスの充実を図る。

目標7 利用者アンケートによる患者満足度

令和4年度目標：

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の①から③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。
 - ①当センターのリハビリテーションについてご満足いただけましたか。
 - ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
 - ③訪問リハビリテーションの計画についての説明は分かりやすかったですか。
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート調査項目中、以下の④から⑤について、「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合が85%以上であること。
 - ④リハビリを受けることで、あなたの身体機能はどのようになると思っていますか。
 - ⑤リハビリを受けることで、日常生活を送る上での動作（移動（活動範囲の拡大も含む）、食事、排泄、入浴、着替え等）はどのようになると思っていますか。

令和3年度実績：各項目で目標を達成した

1. 訪問リハビリ利用者へのアンケート①から③の満足度
 - ①リハビリテーションの質・技術について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 93.2%
「満足」のみの割合 : 67.0%
 - ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 95.1%
「満足」のみの割合 : 79.6%
 - ③訪問リハビリの計画についての説明
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 80.6%
「満足」のみの割合 : 57.3%
2. 訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度
 - ④リハビリによる身体機能の変化について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 88.3%
 - ⑤リハビリによる日常生活の動作について
「良くなる」と「現状が維持できる」を足した割合 : 87.3%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
管理職が基軸となり、訪問リハビリ同行するなどし、従事する職員に対し、訪問療法士としての姿勢・態度、利用者・家族の生活の視点、情報収集・説明責任、訪問リハビリの基本的視点、リスク管理、多職種協同の具現化などについて指導を行った。また、接遇について各職員が日頃気を付けている点をまとめ、共有することで意識付けを行った。
- ② 患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示すること

や、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。

③リハビリテーションの提供に当たっては、職員の技術向上研修等で満足度の向上を目指した。

④満足度調査の結果だけでなく、訪問時に利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問リハビリ利用者へのアンケート①から②の満足度は、各項目で目標を達成し、概ねどの項目も昨年度よりも評価が上がっていた。リハビリテーションの質や技術、待遇などを意識し、より満足度が向上するよう努めた結果と考える。ただ、③については「満足」のみの割合が57.3%と目標を達成することができなかった。より利用者の立場にたち、分かりやすいリハビリ計画の立案と説明ができるように努める。

また、訪問リハビリ利用者へのアンケート④から⑤の満足度は目標を達成できた。これらのことから、効果的な質の高いリハビリテーションが実施できたことが裏付けられる。

令和5年度も更なる満足度の向上を目指し取り組んでいく。

IV 訪問看護利用者について

目標8 利用者アンケートによる患者満足度

令和4年度目標：

訪問看護利用者へのアンケート項目①～③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。

- ①当センターのスタッフが提供する訪問看護についてご満足いただけましたか。
- ②職員の対応についてご満足いただけましたか。
- ③訪問看護の計画についての説明は分かりやすかったですか。

令和4年度実績： 各項目で目標を達成した

- ① 訪問看護について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 81.3%
「満足」のみ割合 : 71.9%
- ②職員の対応について
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 84.4%
「満足」のみ割合 : 78.1%
- ③訪問看護の計画についての説明
「満足」と「やや満足」を足した割合 : 81.3%
「満足」のみ割合 : 68.8%

目標達成に対する活動状況について

- ① 職員の対応に関する事項の満足度の向上
適宜、訪問看護ステーションの所長が職員の訪問に帯同し、訪問看護の内容や接遇を把握し指導を行った。また、接遇について各職員が日頃気を付けている点をまとめ、共有することで意識付けを行った。
- ②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上
患者・利用者のプライバシーへの配慮については、個人情報保護規程に基づく、個人情報の保護を徹底するようスタッフへ教育を行った。また、個人情報保護についての方針に関して、センター内へ掲示することや、介護サービス契約に個人情報保護について明記し、センターの方針を周知した。
- ③訪問看護の提供に当たっては、職員の知識・技術向上研修等で満足度の向上を目指した。また、利用者ごとに毎月発行する訪問看護計画・報告書を訪問看護ステーション所長が全例を確認し、職員の技術向上を図った。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

訪問看護利用者へのアンケート①から③の満足度は、各項目で目標を達成したが、各項目ともに昨年度よりも数字が低くなっている為、質や技術、接遇などを意識しより満足度が向上するよう努めたい。

令和5年度も引き続き、更なる患者満足度の向上を図る。

V リハビリ事業利用者について

目標9 利用者アンケートによる満足度

<p>令和4年度目標：</p> <p>リハビリ事業利用者へのアンケート項目①～③について、「満足」と「やや満足」を足した割合がいずれも80%以上、「満足」の割合がいずれも60%以上であること。</p> <p>①職員の対応についてご満足いただけましたか。</p> <p>②当センターのパワーリハビリについてご満足いただけましたか。</p> <p>③当センターのプールリハビリについてご満足いただけましたか。</p>
<p>令和4年度実績： 3項目中、2項目で目標を達成できなかった</p> <p>① 職員の対応について</p> <p>「満足」と「やや満足」を足した割合 : 92.8%</p> <p>「満足」のみの割合 : 79.5%</p> <p>②パワーリハビリについて</p> <p>「満足」と「やや満足」を足した割合 : 96.4%</p> <p>「満足」のみの割合 : 56.6%</p> <p>③プールリハビリについて</p> <p>「満足」と「やや満足」を足した割合 : 91.7%</p> <p>「満足」のみの割合 : 47.9%</p>
<p>目標達成に対する活動状況について</p> <p>①職員の対応に関する事項の満足度の向上</p> <p>②患者・利用者の個人情報保護の徹底による満足度の向上</p> <p>職員の対応については「外来患者・通所リハビリ・訪問リハビリ患者または利用者満足度」の活動状況に記載したとおり接遇研修を実施し、スタッフの接遇レベル向上を図った。</p> <p>また、患者・利用者のプライバシーへの配慮についても、同様な対応をとり満足度の向上を図った。</p> <p>③利用料値上げに伴うマシンを増設</p> <p>令和4年度は利用料が250円から350円に利用者負担が増加した。利用者の利便性を図るため、これまで混み合っていたヒップアダクション・アダクションのマシンをもう一台増設し混雑緩和を図った。</p> <p>④御意見箱の設置</p> <p>満足度調査の結果だけでなく、センター内に御意見箱を設置し、利用者の御意見を傾聴し、真摯に対応する体制を構築したことで、利用者の満足度の向上を図った。</p>
<p>令和4年度の実績に基づく今後の改善点について</p> <p>職員の対応92.8%（「満足」のみ79.5%）、パワーリハビリ96.4%（56.6%）、プールリハビリ91.8%（47.9%）と、「満足」と「やや満足」を足した割合では全て90%以上であったが、満足のみ割合ではパワーリハビリとプールリハビリが60%を下回った。パワーリハビリはマシンを増やして欲しいという要望が多かったため、昨年度3月に1台増設した。パワーリハビリ・プールリハビリともに予約回数を増やして欲しいという要望が多いが、多くの方が使いにくくなる可能性</p>

や、シャワー台数などから難しい部分があるため、検討課題としたい。

全体的に「満足」と「やや満足」合わせれば非常に高い満足度であることから、利用率の高い状況下においても利用者の安全性の確保や、利用し易い施設運営は図れていると考えられる。

令和4年度においても引き続き、患者満足度の維持・向上を図る。

2. 財務内容の改善に関する事項

目標10 診療所部門 経常収支比率

令和4年度目標： 診療所経常収支比率 100%以上
令和4年度実績： 診療所経常収支比率 94.6% と目標を達成できなかった ※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して 100を乗じて算出した割合で算出。
目標達成に対する活動状況について
① 増患対策
<ul style="list-style-type: none">・ 外来リハ件数（紹介件数）の増加対策として、船橋市立医療センター等急性期病院へ当クリニックの案内を実施した。・ 外来リハビリ患者の増加を目指し、回復期病棟を持つ近隣医療機関へ紹介を行った。また、船橋市立リハビリテーション病院と当クリニックの空き枠情報を共有し、リハ病院退院患者で当クリニックに居住地が近い患者の積極的な受け入れを行った。・ 令和4年度も非常勤医師の勤務日数を週3日確保し、外来・通所の新患外来を積極的に実施。またこれにより往診枠を確保し、訪問リハ件数が増加しても3ヶ月に1回の往診が継続できる体制とした。・ 通所リハビリ、訪問リハビリ利用者の増加を目指し、サービスエリア内の居宅介護支援事業所との情報交換を実施した。また、船橋市立リハビリテーション病院と当クリニックの空き枠情報を共有し、リハ病院退院患者で当クリニックに居住地が近い患者の積極的な受け入れを行った。また、船橋市立リハビリテーション病院入院患者で当センターの訪問範囲に住む患者の一覧を共有することにより対象患者を絞りこみ、船橋市立リハビリテーション病院へアプローチできる体制を整えた。・ センター機関誌を有効活用し、地域・医師会・居宅介護支援事業所・在宅へセンターの情報発信を実施した。
② 費用の削減
<ul style="list-style-type: none">・ 患者・利用者の減少時・増加時に無理・無駄の無いスムーズな人員配置が出来るよう、法人本部に設置する人財育成局を通じ、他の拠点との人事異動を可能にし、常に適切な人員配置に努めた。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

※外来リハ	令和4年度実績	28.9人／日	(前年度対比	+0.1人／日)
※通所リハ	令和4年度実績	45.2人／日	(前年度対比	+2.5人／日)
※訪問リハ	令和4年度実績	59.1人／日	(前年度対比	▲2.5人／日)

外来リハ・通所リハは、新型コロナウイルス感染症の影響をさほど受けず、それぞれ増加した。また、訪問リハはここ2年間ニーズが高まり患者数が大きく増加してきていたが、令和4年度は患者数が減少した。

令和4年度の経常利益は-11,738千円で、診療所経常収支比率は94.6%であった。前年度は-15,568千円で経常収支比率は92.9%であったため、前年度に比べて+1.7%の増加となった。要因としては、医業収益は19千円増加し、給与費など医業費用も▲2,588千円減少したためである。

令和5年度においても、5類変更にはなったが引き続き新型コロナウイルス感染症の感染対策を徹底しながら、患者・利用者が安心して通院できるよう、また、安心して自宅でリハビリを受けることができるよう、クリニック運営を行っていく。

目標11 訪問看護部門 経常収支比率

令和4年度目標： 訪問看護経常収支比率 100%以上

令和4年度実績： 訪問看護経常収支比率 100.2% と目標達成した
※各部門の指定管理料を除いた収入の合計を各部門の支出の合計で除して100を乗じて算出した割合で算出。

目標達成に対する活動状況について

①増患対策

- ・サービスエリア内居宅介護支援事業所と情報交換を実施した。
- ・訪問看護からの訪問リハ（訪問看護I5）を実施し、訪問看護・訪問リハの併用が必要な利用者についてケアマネジャーが依頼しやすい体制を整え、訪問看護件数の増加を図った。
- ・同法人が運営する船橋市立リハビリテーション病院の会議に訪問看護スタッフが参加し、訪問看護に繋げられる患者の掘り起こしを実施。また、船橋市立リハビリテーション病院入院患者で当センターの訪問範囲に住む患者の一覧を共有することにより対象患者を絞りこみ、船橋市立リハビリテーション病院へアプローチできる体制を整えた。

②費用の削減

- ・看護師は紹介会社経由で採用すると高額な紹介手数料が発生する。可能な限り紹介会社を使わなくてすむよう、同法人他拠点の退職希望者への声掛けなどを行うことで、費用を抑えた採用につなげた。

令和4年度の実績に基づく今後の改善点について

※訪問看護 令和4年度実績 20.5人/日（前年度対比 +0.7人/日）

船橋市立リハビリテーション病院からの紹介件数が18件（令和3年度4件）と4.5倍に増えたこともあり令和3年度よりも0.7人/日増加することができた。

令和4年度の経常利益は93千円で、訪問看護経常収支比率は100.2%であった。前年度は5,833千円で経常収支比率は115.3%であり、前年度比で見ると減少した。要因としては、医業収益が+1,239千円増加したが、医業費用は+7,770千円増加したためである。主な増加要因は船橋市立リハビリテーション病院との連携強化の為、看護師1名増員したことによる人件費の増加によるもの。令和5年度においては、人員を令和3年度と同じに戻しつつも、引き続き船橋市立リハビリテーション病院との連携は途切れないようにしながら利用者増加を図っていく。

3. その他管理に関する重要事項

目標12 毎年度実施計画を立て地域リハビリテーション拠点事業を行う

<p>令和4年度目標：</p> <p>地域リハビリテーション拠点事業の実施計画に定めた事業内容を最低限行うこと。</p>																						
<p>令和4年度実績： 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、集合形式での講演会や研修会は開催できなかったが、Web形式で行うことで、概ね計画通り事業を実施した。</p>																						
<p>目標達成に対する活動状況について</p> <table><tr><td>①リハビリセンターパンフレット作成</td><td>1回/年</td></tr><tr><td>②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布</td><td>2回/年</td></tr><tr><td>③リハビリセンター刊行物の作成、配布</td><td>4回/年</td></tr><tr><td>④ホームページに最新情報を掲載</td><td>2回/年</td></tr><tr><td>⑤市民向け講演会開催</td><td>1回+動画配信1本/年</td></tr><tr><td>⑥市民向け研修会開催</td><td>3回/年</td></tr><tr><td>⑦リハビリ関係者向け講演会開催</td><td>2回/年</td></tr><tr><td>⑧リハビリ関係者向け研修会開催</td><td>6回/年、動画配信2本</td></tr><tr><td>⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告</td><td>2回/年</td></tr><tr><td>⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。</td><td></td></tr><tr><td>⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。</td><td></td></tr></table> <p>(資料3 地域リハビリテーション拠点事業実績)</p>	①リハビリセンターパンフレット作成	1回/年	②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布	2回/年	③リハビリセンター刊行物の作成、配布	4回/年	④ホームページに最新情報を掲載	2回/年	⑤市民向け講演会開催	1回+動画配信1本/年	⑥市民向け研修会開催	3回/年	⑦リハビリ関係者向け講演会開催	2回/年	⑧リハビリ関係者向け研修会開催	6回/年、動画配信2本	⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告	2回/年	⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。		⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。	
①リハビリセンターパンフレット作成	1回/年																					
②地域リハビリ推進用リーフレットの作成、配布	2回/年																					
③リハビリセンター刊行物の作成、配布	4回/年																					
④ホームページに最新情報を掲載	2回/年																					
⑤市民向け講演会開催	1回+動画配信1本/年																					
⑥市民向け研修会開催	3回/年																					
⑦リハビリ関係者向け講演会開催	2回/年																					
⑧リハビリ関係者向け研修会開催	6回/年、動画配信2本																					
⑨維持期リハビリの実態と潜在的なニーズの調査研究報告	2回/年																					
⑩船橋市地域リハビリテーション協議会、ひまわりネットワーク地域リハ推進委員会等のメンバーと積極的に連携を行った。																						
⑪リハビリセンター内にリハビリ相談窓口を設置し、総合相談を行った。																						
<p>令和4年度の実績に基づく今後の改善点について</p> <p>令和4年度は、令和3年度の経験を活かし、Web（ZOOM）を活用した研修会を行った。Webを活用することで、会場に足を運ばなくても参加できること、また、同時刻に参加できなくても、後日、勉強会内容を動画配信で学び直すことができるといったメリットがある一方、意見交換をする際に、直接会って行った方が効果があるという意見も見られた。</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を見ながら、対面式で行う研修と、Web（ZOOM）を活用して行う研修とを企画したい。</p>																						